ARTCOURT Gallery
Yagi Art Management, Inc.

◎ ACGプレスリリース
－展覧会開催のご案内－

村上三郎 展　Saburo Murakami

《作品》1957｜27 x 22.5 cm｜合成樹脂塗料、カンヴァス

この度、アートコートギャラリーでは村上三郎展を開催いたします。

本展では、村上の代表作、木枠に張ったクラフト紙を突き破る〈紙破り〉について、国内に唯一現存する痕跡[1]としての《入口》(1955/2003)、'80～'90年代に行われたパフォーマンスの映像、そして、1956年の第2回具体美術展で写真家の大辻清司によって捉えられた《通過》の連続写真による多角的な展示を通し、その諸相を映し出すことを試みます。
さらに、それらの〈紙破り〉を、立体作品《空気》(1956/1994)、'50～'60年代の絵画作品とともに通観することで、村上が実践した身体的行為と描くこと、そしてコンセプチュアルな表現の関係性について改めて考え、そこに通底する問題意識を探ります。

村上三郎の代名詞とも言える〈紙破り〉は、しばしばパフォーマンスの先駆として、また、画面の破壊によって絵画における既存の枠組みを解体し、その本質と新たな可能性を追求した試みとして位置づけられます。しかし、作家自身にとってそれは、物質と自らの身体・精神の衝突において生み出されるものを掴み取りたいという好奇心から出発し、木枠と紙の内部に閉じ込めた時空間を一挙に解放することによって自己の存在をも自由に解き放ち、そこから得られる「今、此処」そして「生」の実感に向き合おうとする極めて私的かつ根源的な欲求にもとづく表現行為でもありました。

村上は〈紙破り〉を通じて、時間と空間、必然と偶然、自己と他者といったテーマを身を以て検証しようとしましたが、「生きること」と分かちがたく結びついたこれらの諸問題は、絵画作品においても様々な形で提起されています。塗料を盛ったカンヴァスを下向きにしたまま一晩放置することで生み出された作品(1957)は、時間の経過と重力の作用によって必然と偶然が渾然一体となり創出された画面空間を生々しい物質性とともに提示しています。支持体の上にカンヴァスを貼り付けた作品(1959)では、平面的な絵画の構造が異化され、描かれたイメージは空間的・時間的な奥行きを持つものとして鮮やかに経験されます。

〈紙破り〉やこれらの絵画に体現されるように、村上の表現には、世界との関係の中で織り成される存在の様相を捉えようとする真摯な姿勢が貫かれていますが、それは常に、経験的な知識や予測、意図などに縛られることなく、ひらすら自己を突き詰めた先にある無心の状態に近づこうとする独自の哲学と表裏一体のものでした。1960年代後半の絵画作品では、カンヴァスに貼りつけた紙片の輪郭に沿って筆を運ぶことにより、曲線と直線、色面からなる緊張感に満ちた形象が描き出されています。そこには画面の創造という〈紙破り〉とは対照的な表現形態において自己の意識を乗り越えようとした作家の、作為と無作為による拮抗の軌跡が刻まれているかのようです。そして、展示の都度ガラス板を組み立てる《空気》は、〈紙破り〉同様、その場の空気を封じ込めることが意図された作品ですが、それは作家が追い求めた無心、さらには、まだ形を持たない不安定ながら豊穣なイメージの現出そのものとの出会いを暗示しているようにも思われます。

村上は、〈紙破り〉についての後年のメモで、次のように記しています。

――*予め其処に何かが在るような気がして探求するのでは無い。何かというのが何であるのか実体の予感が無くてもゼン(蠕)動する活力が行為を導くことによって或種としか言い様の無い心理的昂揚に達する。私が紙を破るパフォーマンスの中で獲得したものは"語り得ない気"である。*[2]

予測や作為によって固定された実体ではなく、自由なエネルギーに満たされた無心の行為から今まさに生まれ出ようとする未分化の「何ものか」に触れた時、それに呼応するように自らの「生」が鮮やかに立ち現れる。村上にとって表現することとは、その瞬間を経験するための飽くなき挑戦だったのではないでしょうか。

＊1: パフォーマンス後に残される物質、つまり破れた紙と木枠から成るオブジェクトのことを指す。　＊2: 村上自筆のメモより。「'91・5・29 2:00AM」と日時の記載がある。

【展覧会概要】

展覧会タイトル：村上三郎 展
会　期：2017年10月14日［土］－ 12月9日［土］＊日・月・祝 休廊
会　場：アートコートギャラリー
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F
開廊時間：11:00－19:00（土曜日は17:00まで）

◆ 関連イベント　10月20日［金］
18:00 - 19:00・・・トーク［堀尾貞治（美術家）×山本淳夫（横尾忠則現代美術館学芸課長）］
19:00 - 20:00・・・レセプション
＊対談は要予約（Email: info@artcourtgallery.com または Tel: 06-6354-5444まで）
＊参加費無料

主催：アートコートギャラリー（株式会社八木アートマネジメント）
協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

《入口》1986｜「具体 - 行為と絵画」兵庫県立近代美術館｜撮影：夏谷英雄

【お問い合わせ】アートコートギャラリー［担当：清澤・灰田］ ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F　TEL: 06-6354-5444　FAX: 06-6354-544　E-mail: info@artcourtgallery.com　Website: www.artcourtgallery.com

ARTCOURT Gallery
Yagi Art Management, Inc.

◎ ACGプレスリリース
－展覧会開催のご案内－

村上三郎 展　Saburo Murakami

▪ 主な出展作品【立体・タブロー・写真】

《入口》
1955/2003｜267.5 x 190 x 6.5 cm｜紙、木枠
＊2003年ギャラリークラヌキ（現アートコートギャラリー）での村上三郎展において、作家子息の村上知彦氏が制作。［実施日：3月29日］
撮影：加藤成文（アートビジョン）

《作品〈空気〉》
1956（再制作：1994）
21 x 21 x 21 cm
ガラス、セロハンテープ
＊初出：1956, 第9回芦屋市展（精道小学校、芦屋）
撮影：表 恒匡

《作品》
1957
27 x 22.5 cm
合成樹脂塗料、カンヴァス
＊初出：1957, 第3回具体美術展（京都市美術館）
撮影：来田 猛

《作品》
1959
91 x 72.5 cm
合成樹脂塗料、カンヴァス
＊初出：1959, 第8回具体美術展（京都市美術館/小原会館、東京）
＊会期中、展示替えの予定あり。

《作品》
1960年代後半
224 x 180 cm
合成樹脂塗料、紙、綿布

©村上牧子
©大辻誠子
『OTSUJI KIYOJI GUTAI PHOTOGRAPH 1956-1957』
（発行 武蔵野美術大学 美術館・図書館、東京パブリッシングハウス）より

《通過》
1956
20.5 x 31.5 cm（イメージサイズ、各）
写真6点（ゼラチン・シルバープリント、ed. 10/17、2012）
撮影：大辻清司

1956年の第2回具体美術展（小原会館、東京）において、展覧会オープンの前日10月10日に制作。村上は、クラフト紙を太鼓張りにした21の木枠（紙は合計42枚）を並べ、その一枚一枚を体当たりで突き破りながら駆け抜けた。『芸術新潮』の嘱託カメラマンとして制作の現場に立ち会った写真家の大辻清司によって、行為の推移と激しさが的確に捉えられた連続写真。

【お問い合わせ】アートコートギャラリー［担当：清澤・灰田］ ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F　TEL: 06-6354-5444　FAX: 06-6354-544　E-mail: info@artcourtgallery.com　Website: www.artcourtgallery.com

ARTCOURT Gallery
Yagi Art Management, Inc.

◎ ACGプレスリリース
－展覧会開催のご案内－

村上三郎 展　Saburo Murakami

▪ 主な出展作品【パフォーマンス映像】

▫ 2017年編集　各2～4分程度
撮影：村上牧子／編集：Ufer! Art Documentary／企画・構成：アートコートギャラリー
© Makiko Murakami, © 2017 ARTCOURT Gallery, Courtesy of the estate of Saburo Murakami

《入口》
1986年8月30日
「具体 — 行為と絵画」
兵庫県立近代美術館

1955年の第1回具体美術展（小原会館、東京）で初めて制作された。展覧会のオープニング・セレモニーとして、会場の入口に張られた金塗装のクラフト紙を具体美術協会のリーダーである吉原治良が突き破った。紙が突き破られる瞬間の音と衝撃に空間全体が共振する。紙破りのなかでも儀式性が強く、最も代表的な作品。

《Isshun ni shi te rokko no ana wo akeru》（6ツの穴）
1991年3月24日
「Gutai: Japanische Avantgarde 1954-1965」（具体：日本の前衛1954-1965）
ダルムシュタット市立マティルデンヘーエ美術館

1955年の第1回具体美術展（小原会館、東京）で初めて制作された。200号大のカンヴァス用木枠と、それに合わせて制作した同型の木枠2つ、合計3つの木枠の各両面にクラフト紙を太鼓張りにし、木枠どうしを連結させた。一番手前の木枠の外側のみ、強度を増すために紙が二重に張られている。村上はそこに体ごと飛び込み、一気に6つの穴を開けた。第1回具体展オープンの前日に公開制作され、会期中は他の平面作品と同様に、壁面に展示された。制作過程が公開された最初の紙破り。

《作品（6ツの穴）》
1993年10月15日
「具体 1955/56 –日本現代美術のリスタート地点」
ペンローズ・インスティテュート、東京

同じく、1955年の第1回具体美術展で初めて制作。

《Traversant les écrans de papier》（通過）
1994年11月8日
「Hors Limites: L'arte et la vie 1952-1994」（限界を越えて）
ポンピドゥー・センター、パリ

1956年の第2回具体美術展（小原会館、東京）にて初めて制作された。初回はクラフト紙を太鼓張りにした21の木枠（紙は合計42枚）を並べ、その一枚一枚を体当たりで突き破りながら駆け抜けた。

《出口》
1994年11月12日
「ONE DAY MUSEUM～観るから感じる」
川西市役所

1993年フランスのトゥールーズでの展覧会「Gutaï…suite?」（Palais des arts）にて初公開。緩く張られた薄葉紙を静かに破り抜け、展示会場の外へ出る。強く張られた金色のクラフト紙を鋭い音とともに引き裂き、展示会場へ突入する《入口》と表裏をなすかのような、紙破りの新たな展開。'94年のパフォーマンスが村上自身による最後の紙破りとなった。

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当：清澤・灰田]　※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F　TEL: 06-6354-5444　FAX: 06-6354-544　E-mail: info@artcourtgallery.com　Website: www.artcourtgallery.com

村上三郎

略年譜・主な展覧会

1925(大正14)　神戸市に生まれる。[6月27日]
1943(昭和18)　関西学院大学予科に入学。絵画部「弦月会」に入る。
　神原浩に師事、油絵を始める。
1944(昭和19)　学徒動員のため、久保田鉄工所武庫川工場で働く。
1945(昭和20)　鳥取歩兵第40連隊に入隊。その後、南九州高鍋方面へ転属。
　終戦。[8月15日]
1947(昭和22)　関西学院大学文学部哲学科(旧制)に復学。('48 卒業)
　この頃、ペンネームとして「村上彦」を名乗る。
1949(昭和24)　伊藤継郎に師事。
1951(昭和26)　関西学院大学大学院(旧制)で美学を専攻。
1952(昭和27)　第5回芦屋市展(仏教会館、芦屋) '94年の第47回展まで毎回参加する。
　この頃、金山明、白髪一雄、田中敦子ら新制作派協会の先鋭的メンバーによって結成された「0会」に参加。
1954(昭和29)　「村上彦 白髪一雄 二人展」阪急百貨店洋画廊、大阪 —— 会場で吉原治良と初めて出会う。
　「0会展」そごう百貨店ショーウィンドー、大阪
　—— 塗料をつけたボールを画面に投げつけて制作した《投球絵画》を発表。
1955(昭和30)　この頃、具体美術協会会員となる。
　「真夏の太陽にいどむ野外モダンアート実験展」芦屋公園
　—— アスファルト・ルーフィングを破りながら走り抜ける作品などを発表。
　「第1回具体美術展」小原会館、東京
　——〈紙破り〉を初めて制作、《6ツの穴》《入口》などを発表する。《入口》は吉原治良による制作。
　この頃より、伊丹、西宮、大阪などの幼稚園で児童画教育に終生携わる。
1956(昭和31)　「第6回関西総合美術展覧会」大阪市立美術館
　—— 木箱《作品(坐って下さい)》を洋画の部に委嘱出品し物議を醸す。
　「神港アンデパンダン展」神港新聞社3階ホール、神戸 —— 木箱の中に柱時計を入れた作品《箱》を出品。
　「第9回芦屋市展」精道小学校、芦屋 ——《空気》を出品。
　「野外具体美術展」芦屋公園 ——《あらゆる風景》《空》を出品。
　「第2回具体美術展」小原会館、東京 ——《通過》(紙破り)を発表。
1957(昭和32)　「第3回具体美術展」京都市美術館
　—— 塗料を盛り上げた画面を下向きにして一晩放置し制作した絵画や、
　　塗料と膠の変質によって塗面が剥落し続ける大作の絵画を出品。
　「舞台を使用する具体美術」産経会館、大阪／産経ホール、東京
　—— 紙を張ったパネルを手足と棒で破壊するパフォーマンス《屏風と取組む》を発表。
1958(昭和33)　「新しい絵画世界展 – アンフォルメルと具体」高島屋3階ホール、大阪(他、4都市を巡回)
　「The Gutai Group Exhibition」(第6回具体美術展)
　マーサ・ジャクソン・ギャラリー、ニューヨーク(他、米国の4都市を巡回)
　この頃より'60年代初期まで、烈しいストロークによる絵画作品を多数制作する。
1959(昭和34)　「第8回具体美術展」京都市美術館／小原会館、東京 —— 画面にカンヴァスを貼りつけた絵画作品を出品。
1963(昭和38)　個展、グタイピナコテカ、大阪
　—— 画面に木枠を貼り付けた絵画や、石膏による突起のある絵画など21点を出品。
1964(昭和39)　「第14回具体美術展」高島屋3階ホール、大阪
1965(昭和40)　「第15回具体美術展」グタイピナコテカ、大阪
1968(昭和43)　「第20回具体美術展」グタイピナコテカ、大阪 —— カンヴァスに紙を貼り付け、縁をなぞった作品を出品。
1969(昭和44)　「具体美術小品展」グタイピナコテカ、大阪
1971(昭和46)　「村上三郎『箱』個展」モリスフォーム、大阪
　この頃、具体美術協会に対して退会届を提出するが、受理されなかった。
1972(昭和47)　具体美術協会解散[3月31日]
1973(昭和48)　「村上三郎個展」〔拍子木〕春秋館画廊、大阪
　「村上三郎展」〔無言〕無減社、大阪
1974(昭和49)　「村上三郎展」〔水〕信濃橋画廊エプロン、大阪
　「村上三郎展」〔筋〕信濃橋画廊エプロン、大阪
1975(昭和50)　「村上三郎カキクケ個展」清和画廊、大阪
1976(昭和51)　「村上三郎展」〔床〕信濃橋画廊エプロン、大阪
1977(昭和52)　「村上三郎展『自同律の不快』」ギャルリーキタノサーカス、神戸

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F　TEL: 06-6354-5444　FAX: 06-6354-544　E-mail: info@artcourtgallery.com　Website: www.artcourtgallery.com

村上三郎

1979（昭和54）　「吉原治良と具体のその後」兵庫県立近代美術館
1986（昭和61）　「具体－行為と絵画」兵庫県立近代美術館（マドリッド、ベオグラードを巡回）
「Japon des Avant-gardes 1910-1970」（前衛芸術の日本1910-1970）ポンピドゥー・センター、パリ
1990（平成2）　「Giappone all'avanguardia: Il Gruppo Gutai negli anni Cinquanta」（前衛の日本–1950年代の具体グループ）ローマ国立近代美術館
1991（平成3）　「Gutai: Japanische Avantgarde 1954-1965」（具体－日本の前衛1954-1965）ダルムシュタット市立マティルデンヘーエ美術館
1992（平成4）　「具体展I 1954-1958」芦屋市立美術博物館（'93年に具体展II, III開催）
「甦る野外展」芦屋公園（「具体展I」の関連企画）
1993（平成5）　「La Biennale di Venezia, 45a Esposizione Internazionale d' Arte - Passaggio ad Oriente」
（第45回ヴェネツィア・ビエンナーレ－東洋への道）ヴェネツィア
「Gutaï…suite?」（具体、其の後）トゥールーズ国立美術学校 —— 薄葉紙を破り抜ける《出口》を発表。
「具体 1955/56 –日本現代美術のリスタート地点」ペンローズ・インスティテュート、東京／キリンプラザ、大阪
「MUSIC / every sound includes music」ジーベックホワイエ、神戸
1994（平成6）　「Japanese Art After 1945: Scream Against the Sky」（戦後日本の前衛美術－空へ叫び）
グッゲンハイム美術館ソーホー、ニューヨーク他
「Hors Limites: L'arte et la vie 1952-1994」（限界を越えて）ポンピドゥー・センター、パリ
—— 出品作品《通過》が同館のコレクションとなる。
「ONE DAY MUSEUM ～観るから感じる」川西市役所 —— ここで発表した《出口》が最後のパフォーマンスとなる。
1996（平成8）　未明、自宅前で転倒し緊急入院。［1月6日］
脳挫傷のため逝去。享年70。［1月11日］
「村上三郎展」芦屋市立美術博物館
1998（平成10）　「Out of Actions: Between Performance and the Object 1949–1979」（アクション：行為がアートになるとき 1949–1979）
ロサンゼルス現代美術館、東京都現代美術館 他
1999（平成11）　「Gutaï」ジュ・ド・ポーム国立美術館、パリ
2001（平成13）　「Le Tribù dell' Arte」ローマ市立近現代美術館
2003（平成15）　「村上三郎展」ギャラリークラヌキ、大阪
2004（平成16）　「結成50周年記念『具体』回顧展」兵庫県立美術館、神戸
「痕跡—戦後美術における身体と思考」京都国立近代美術館／東京国立近代美術館
2006（平成18）　「ZERO: Internationale Künstler-Avantgarde der 50er/60er Jahre」クンストパラスト美術館、デュッセルドルフ／
サン=テティエンヌ近代美術館
2007（平成19）　「Artempo: Where Time Becomes Art」パラッツォ・フォルチュニ、ヴェネツィア
2009（平成21）　「La Biennale di Venezia, 53a Esposizione Internazionale d' Arte - Fare Mondi」
（第53回ヴェネツィア・ビエンナーレ「世界を構築する」）ヴェネツィア
2010（平成22）　「Gutai: Dipingere con il tempo e lo spazio」ルガーノ郡立美術館
2011（平成23）　「村上三郎—70 年代を中心に」アートコートギャラリー、大阪
2012（平成24）　「『具体』—ニッポンの前衛 18年の軌跡」国立新美術館、東京
「Destroy the Picture: Painting the Void, 1949-1962」ロサンゼルス現代美術館／シカゴ現代美術館
「TOKYO 1955-1970：A New Avant-Garde」ニューヨーク近代美術館
2013（平成25）　「Parallel Views: Italian and Japanese Art from the 1950s, 60s, and 70s」 The Warehouse ラチョフスキー・コレクション、ダラス
「Gutai: Splendid Playground」（具体：素晴らしい遊び場所）グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
2016（平成28）　「Performing for the Camera」テート・モダン、ロンドン
—— 大辻清司撮影《通過》（1956年第2回具体美術展）の連続写真より6点展示。
「The Emergence of Contemporary: Avant-garde Art in Japan, 1950-1970」
（コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術 1950-1970）パソ・インペリアル美術館、リオ・デ・ジャネイロ
「あの時みんな熱かった！アンフォルメルと日本の美術」京都国立近代美術館
「New Beginnings: Between Gesture and Geometry」ジョージ・エコノム・コレクション、アテネ
「A Feverish Era in Japanese Art」パレ・デ・ボザール、ブリュッセル
2017（平成29）　「1950年代の日本美術—戦後の出発点」神奈川県立近代美術館 葉山

主な収蔵先

芦屋市立美術博物館／大阪新美術館建設準備室／北九州市立美術館／京都国立近代美術館／国立国際美術館（大阪）／千葉市美術館／東京都現代美術館／西宮市大谷記念美術館／兵庫県立美術館／府中市美術館／宮城県美術館
アクセル・アンド・メイ・ヴェルヴォールト財団（ワインエーゲム）／グッゲンハイム・アブダビ／シカゴ美術館／ジョージ・エコノム・コレクション（アテネ）／ニューヨーク近代美術館／ポンピドゥ・センター（パリ）／M+（香港）／ラチョフスキー・コレクション（ダラス）

【お問い合わせ】アートコートギャラリー［担当：清澤・灰田］ ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F　TEL: 06-6354-5444　FAX: 06-6354-544　E-mail: info@artcourtgallery.com　Website: www.artcourtgallery.com